

京都府知事北垣國道

東京府知事芳川頌正

太政大臣三條實美殿

學術演說者ヲ檢束スルヲ請フ建言

外交初テ開テ世態漸ク變リ

皇德溪發シテ奎運勃興ス人博采ヲ尚ヒ俗陋習

ヲ破ル朝野盛ニ學藝ヲ興シ上下專ラ歐米之學

ヲ講ス制度典章之儀朝廷之ヲ采リ權利自由

之說民人之ヲ知ル集會結社之事亦行レテ國家之政

法ヲ私議スル者稍ク出ツ有司寛假ニ取テ之ヲ制セ

將ニ衆思ヲ集メ群力ヲ併セ大ニ大政ヲ翼賛セトス既

ニシテ而シテ吾民之敏捷ナル流レテ輕躁ニ入り實務

ニ達セスシテ空理ニ騖セ邪說暴行妄リニ政法ヲ是

非シ民心ヲ擾亂ス少年子弟其得失ヲ知ラス和シ

民彙ヲ破リ治安ヲ害スルニ至ル明治十三年初テ
集會條例ヲ設ケ十五年又之ヲ訂正シ以テ詭激ヲ
防制シ治安ヲ保持ス然レバ其法未タ以テ完備ナ
リト為スニ足ラス世間巧ニ法經ヲ逃レ陰ニ詭激ヲ行
フ者アリ夫ノ學術ノ集會是ナリ今日學術ヲ以テ集
會ニ演說討論スル者ヲ觀ルニ集會條例ニ犯觸シテ
政治ノ演說ヲ禁止セラレタル者カ若クハ政談政社ノ
臨會加入ヲ制止セラレタル之徒ニシテ多クハ人ニ師タル
之學識ヲ有スルニ非ス又說ク所根柢アルニ非ス外國之
書ヲ繕キ繕ニ其門戸ヲ窺ヒ妄リニ社會平權人民
同等ヲ講シ徒ニ佛國之顛覆英國之立憲米國之
獨立魯國之壓制ヲ談ス其說雜駁杜撰骨ナク肉ナ
ク徒皮相ヲ粉飾スル耳其天下後世ヲ誤ラサル者殆

ト希ナリ人民保安之任ニ在ル者一日モ其匡救ヲ忽
ニス可ラサル也議者曰現行之集會條例ハ明ニ其規
律ヲ載セタリ其才十六條ニ曰學術會其他何等之
名義ヲ以テスルニ拘ハラス多衆集會スル者警察官ニ於テ
治安ヲ保持スルニ要用ナリト認ルハ之ニ監臨スルヲ得
若シ監臨ヲ肯セサルハ第十二條ニ依テ處分ス學術
會ニメ政治ニ關スル事項ヲ講談論議スルヲアルハ第
十條ニ依テ處分ス第十七條ニ曰前條之場合ニ於
テ治安ヲ妨害スルヲ認ルハ第廿六條ニ依テ處分スト
學術ノ集會モ治安ヲ妨害スルハ政談ト同ク處分
スルヲ得豈ニ規律完全ナラスト謂フ可ケンヤト議
者之說固ニ然リ然レバ徒ニ其名ヲ見テ其實ヲ察マ
サルノ言ナリ夫ノ學術演說之弊ハ集會條例頒布

以後ニ生シ明治十四年稍ク盛ニ其十五年ニ至リ益
蔓延シ遂ニ條例ヲ増補セラレ學術之演説モ治
安ニ妨害アリト認ルハ之ヲ中止シ之ヲ解散シ又禁
銅罰金ヲ科スルニ至ル然レバ其弊轉盛ニ未タ其
度止スル所ヲ知ラス是其規律不備ナルニ非スレテ何
ソ政談學説ヲ混同シ規律ヲ設ルニ坐マルノミ夫レ政治
學術モ其演説討論ニ就テ之ヲ觀ルハ相類スル
カ如シト雖モ其實大ニ異リ其之ヲ慶スルノ道又決
之ヲ同フス可ラヌ何トナレハ政治ハ外ナリ學術ハ内也其治
安ニ於ル政治ハ直接ナリ學術ハ間接ナリ之ヲ疾病ニ
譬フ皮膚病ニ在ル者ハ劇甚ナラサレハ性命ヲ害スルニ至
ラス而シテ輕キモ人能ク之ヲ療スルコトヲ知ル腹心ニ在ル
者ニ至テハ人得テ之ヲ知ラス漸ク膏肓ニ入り遂ニ救

藥ス可ラス演説ノ人心ニ於ル政談ハ其説ク所奇僻ナ
ラサレハ之ヲ箝動シ難ク其箝動スル者ニ至テハ治
安ニ妨害アルト否サルト一見以テ之ヲ判ツヘシ且夫レ
政ヲ行フハ朝廷之任假令慶士横議スルコトアルモ朝廷
敢テ采ルヲ要セス政治固リ一人ノ為ニ之ヲ為スニ非マ
其利害博ク國家ニ及フ民人タル者唯政法ヲ遵守
スレハ可ナリ本ト政談之務アルニ非ス若シ政談アリテ人
或ハ其本然之務ヲ妨ルノ虞アルハ當ニ其論議之是
非ヲ問ハス之ヲ聽クコトヲ制止スヘシ學術ハ則チ然ラス
其科廣博其旨深遠其高尚ナル者ニ就テ論スルハ
ハ則チ天文地理其卑近ナル者ヲ言フハ則チ農事工
作凡ク人ノ世ニ立チ生ラ營ムノ道皆學術ニ非サルハナ
レ而シテ其歴史經濟等ヲ説クニ至テハ其言辞ヲ巧妙

ニレ陽ニハ平実ヲ裝飾スト雖モ陰ニハ詭激ヲ教唆シ
テ人民之心志ヲ擾乱スル者アリ又謬見僻説ヲ揚々
自得シテ人民之視聽ヲ迷惑スル者アリ又陰事ヲ許
祭シ罵詈譏諤シテ人民ノ徳義ヲ壞敗スル者アリ凡ソ
學術之要ハ善行ヲ勵シ技藝ヲ長シ安寧ヲ保チ福
祉ヲ護ルニ在リ教員學識之足ラサル言行之脩ラサル
課書主義之良カラサル文字之佳ナラサル學問其利ナ
キノミナラス却テ其詐ヲ譽ヒ禍害ヲ醸マ古來邪説
浮辭之世ヲ惑シ民ヲ誣ルヤ其害甚リ尚時ニ止マラス
延テ後世ニ及ヒ洪水猛獸ヨリ甚シキ者アリ其迹遠ク
尚時ニ求メスミテ現ニ今世ニ在リ維新以降技藝智能
之學初テ興テ禮義廉耻之教漸ク衰レ權利自由之
說新ニ行ハレテ忠信篤敬之風將ニ泯ニトス今日識者

カ慨歎スル所ノ風俗頹敗モ原ト政談ニ由ルニ非スニテ主
トシテ空理之行ハルニ在リ空理之行ハル、教育其道ヲ
失フニ在リ豈ニ戒メサル可ニヤ教育之道従前法令ナ
キニ非スト雖モ其法令之制スル所ハ學齡兒童ニ止リ中
年以上ノ教育ハ拳テ民人ニ委メ故ヲ以テ自國普通ノ
文未タ通セサルニ既ニ外國高尚ノ理ヲ講シ存養素ヲ
ク放縱自ラ任ス然リ而メ縱ニ外國之理論ヲ解スレハ傲
然教師トナリ肆ニ空理ヲ唱ヘ奇僻ヲ尚フ後死之者此
凡潮ニ漂漾セラレ之ヲ能ク防制スルコトナキハ遂ニ悖戾
壞乱ノ民タルニ外ナラス教育ノ國家ニ於ル其關係固
ヨリ大ナリ小官等之ヲ憂フルコト久シ朝廷遠觀教育令
ヲ改正シ嚴ニ學事ヲ督ス是ニ於テ各般ノ學校擅ニ開
クコト許サス荒酷暴激若クハ刑餘之人教師クルコトヲ

得ス邪僻奇淫之文課書タルヲ得ス少年学校ハ特ニ徳教ヲ重セシム其一タテ害ナキヲ視テ開設ヲ許可シタル学校モ常ニ教師生徒ヲ督勵シ教旨課書ヲ視察シ苟モ教旨之邪僻ニ入り言行之放肆ニ流ル者ハ嚴ニ之ヲ警戒シ之ヲ損存シ其ヲ理ニ驚セ実ヲ失ハサラシム然リ而メ學術之演説討論ハ演者ノ學識性情ヲ問ハス一ニ其為ス所ニ任放シ唯警察官ヲ以テ時ニ臨ミ事ニ應ジテ之ヲ制セシム凡ソ學術ニ百科アリ論宗ニ万派アリ其人ヲ瞞キ私ヲ營ム之論ニ空ツテハ陰險詭譎正邪辨シ難シ警察官又百般ノ學科ニ通スル者ニ非ス其之ヲ制スル豈ニ又難カラズヤ噫前門虎ヲ防ケハ後門狼ヲ進ム今学校之虎漸ク前門ヲ退キ演説ノ狼又後門ニ進ム今之ヲ驅除スル之策如何曰學

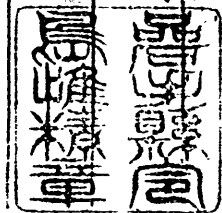
術之演説ヲ為スヲ得ル者ハ中外大學校ニ於テ專門之學科ヲ卒業シタル者ニシテ其學科ニ限り若クハ碩學老儒ニシテ修身ノ教ニ限り学校教師ト同ク地方官其性質言行ヲ檢按シ文部卿之ヲ許否スル者ト定メ其既ニ許可ヲ得タル者モ常ニ其言行ヲ視察シ苟モ邪僻放肆ニ入ル者ハ之ヲ懲戒シ之ヲ禁止スルハ庶幾クハ白面乳臭之書生漫然演壇ニ上リ口ヲ學術演説ニ著テ放言僻説ヲ逞フスル能ハス所謂後門之狼又尚サレ之ヲ退クベキナリ夫レ學術之演説ハ即チ學術ノ講議ナリ其學術ニ通曉シ其識見ヲ有シ苟モ人ニ師タル之學識ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ為ス之理ナク學術演説ヲ為ス者ノ学校教師ニ於ル固ヨリ其義ヲ同一ニス演説者學識之足ラサル言行之脩ラサル其世ヲ惑ヒ民ヲ

巖手縣

証ル教師ト又何ヲ擇ハシ學校教師ハ既ニ檢索セリ
學術演説者又尚ニ之ヲ檢索セスハ非サル也謹テ具
ス

明治十六年十二月一日

岩手縣令島 惟精



根室縣令湯 元定基



札幌縣令詢 所廣犬

宮崎縣令田 邊輝実

大分縣令西 村亮吉

福岳縣令岸 良俊久

愛媛縣令関 新平

巖手縣

本書
付同
肉回
捺可

岩手縣
岩手縣
岩手縣

ル教師ト又何ヲ擇ハニ学校教師ニ既ニ檢索セリ
術演説者又尚ニ之ヲ檢索セズニ非サル也謹テ具

明治十二年十二月一日

岩手縣令島 惟精



根室縣令湯池定基



本書連名、同僚共非、何レモ同意ニ
付一同捺印、上進呈了仕、処多人數
肉向廻後、時日、迄ニ定候ニ付惟精一名
捺印、又ニ關所、係直呈仕候

龍
新
縣

徳島縣令酒井明

和歌山縣令松本新

山口縣令原保太郎

廣島縣令千田貞曉

岡山縣令高壽五六

鳥取縣令山田信道

島根縣令藤川為親

福井縣令石里務

福井縣

石川縣令岩村高俊

山形縣令折田平内

秋田縣令赤川龍助

青森縣令郷田兼徳

宮城縣令松平正直

福島縣令三島通庸

長野縣令大野誠

岐阜縣令小崎利準

卷之三

畿内

滋賀縣令龍手田安定

山梨縣令藤卯紫朗

靜岡縣令大迫貞清

愛知縣令國貞藤平

三重縣令岩村定高

茨城縣令人見寧

千葉縣令船越衛

群馬縣令揖取素彦

埼玉縣令吉田清英

函館縣令時任為基

新瀉縣令永山盛輝

長崎縣令石田英吉

兵庫縣令森田昌純

神奈川縣令沖守固

大阪府知事建野郷三

京都府知事北垣國道

東京府知事芳川頭正

太政大臣三條實美殿

[Blank area for the main body of the letter]

代言人ヲ廢止シテ健訟ノ弊ヲ矯正ス
ル之義ニ付建言

争訟ハ我民之美ニスル所ニ非ル也
ハ我俗之有ル所ニ非ル也我國従来民間互
相ノ争論ナキニ非ス其錯ンテ解ケサルニ
至テハ往々官司ノ裁判ヲ仰キ其福利ヲ保
護スル者アリ然リト雖其訴訟ニ及フ者千
百中ノ一二ニシテ尋常ノ争論ハ互相之ヲ
怨シ大抵訟ナクシテ止ミタリ欧米權利之
説訴訟ノ法漸ク我國ニ入り代言人亦我國
ニ行ハレ訴訟ノ案件俄ニ其数ヲ増加ス明
治六年七月訴訟答文例ヲ頒布シ初テ原被兩